

G-7 現代乳幼児のおかれています環境条件について

兵庫女子短大家政 ○井上豊子 須見恒子 岩下富子 中西美和

目的 21世紀を担う日本の子どもを大切に、立派に育成することは今日の重大な国民の課題である。然るに世相は憂うべき保育のあやまちを映し出してゐる。その是正と強固な自覚を培うことは、学校教育の期間においてなされるのみ最良である。幸い今回学校指導要領の改訂によって、家庭科の「保育」領域が重視されてゐる。この際人間尊重を基盤とした保育を発達心理学的に学ばせることにより自らを知り、さらに人間の原質に立つて生きていくことを自覚させた。

方法 阪神、明石、丹波地区、(いずれも兵庫県内)の家庭、保育所、社会環境を対象として無作為に300の家庭を抽出し、主に質問紙法で必要に応じて面接法も実施して、I. 乳幼児のおかれています家庭環境、II. 乳幼児のおかれています社会環境に大別し、家庭環境については、家庭における子どものコミュニケーションと意識を中心に調査する。親子の接触時間、接触方法、女性、母性の意識、それから派生すると考えられる諸問題、やがて親の立場に立つ若い人々の乳幼児に対する意識を知る。社会環境については、乳幼児のおかれています生活環境、即ち、公害による影響、乳幼児の文化財、保育所諸問題等、家庭環境と社会環境と深く関連付けて考察した。

結果 以上のような保育中心の調査研究を実施したから家庭科教育の本質を究明し、家庭、社会に貢献する人間育成に努力したと思つてゐる。家庭科教育が確立するためには家政学が発展しなくてはならない、私達は教育実践の場における諸現象を社会的な視野でとらえ、社会家政学の模索を試みたいと思つてゐる。